

# 令和4年度 学校評価総括表

# ( 徳島県立徳島科学技術高等学校 全日制課程 )

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	① 礼儀，責任，勤労，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，主体的・協働的に行動できる人間を育成する。 ② 基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③ 技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	① 進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型(複線型の進路体系)教育システムを生かし，生徒の知識・技術・技能・態度を育成する教育を展開する。 ② 工業・水産教育を核とした教育活動全体を通して，目標を設定し挑み続け，主体的に学習し，他者と協働できる人材の育成を図る。 ③ 持続可能な社会の実現に向けた取組や技術者としての規範意識や倫理観の育成など，これからの社会に求められる特色ある教育活動を実践する。

達成度	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	<b>テーマ</b> 規範意識や倫理観の高揚に努め，豊かな人間性を育むとともに，SSHでの取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ，目標や課題に粘り強く挑戦するチャレンジ精神や，社会の変化に対応できる力を養う教育を推進する。
	① 文武両道を実践し，何事にもチャレンジ精神をもって，主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 [主体的・協働的に取り組む姿勢の育成] ② 社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ，社会の変化に対応でき，地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。 [専門教育の推進] ③ 「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ」に基づき，変化の激しい社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。 [キャリア教育の充実]

## 年度総合評価

重点課題	SSH部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産教育	家庭・地域との連携
番号	1, 2	3, 4	5, 6, 7	8, 9	10, 11, 12, 13	14, 15	16	17	18	19, 20	21, 22	23, 24
総合評価	A	B	B	B	A	B	B	B	B	A	B	B

## 学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	SSH部 ① SSH事業の取組を行うことにより，理数系教育を通して，科学技術人材の育成を図る。	① 課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図り，主体的に取り組む能力を養う。 (SSH部・各クラス・コース)	① 年度末にSSH研究発表会を開催する。 ② 各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	① 各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を11テーマ以上とする。 ② 各種コンテスト等に参加し，入賞以上を目指す。	(評価指標による達成度) ① SSH研究発表会で，6テーマの口頭発表と11テーマの動画発表を行った。 ② 全国や四国地区，県内SSH発表会や他校にて取組の発表を行う。また，各種コンテストにも参加し，入賞を果たした。 (活動計画の実施状況) ① 2月10日に実施 ② 随時実施	(達成度) A  (所見) ①② コロナウイルス感染拡大により，オンライン発表や動画発表，参加も交えての実施となった。	① 各コース1テーマ以上発表をする中で，SSHに関する意識付けができ，プレゼンテーション能力の向上にも繋がった。保健厚生委員会からの発表も実施でき，類・コース・学年を越えた研究ができた。 総合型選抜入試において，自己PRに大いに役立った。 ② 発表会へ積極的に参加した。	① 学校自作のSCITEC-HIノートの導入により，課題研究の高度化に取り組む，科学技術人材の育成を目指す。 ② 参加人数及び入賞数を増やす。 ③ Ⅱ期目最終年を迎えることから，今期の成果の取りまとめと，次期申請に向けた準備を行う。
2		② SSHの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 (SSH部・各クラス・コース)	① 魅力あるSSH事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	① 「SSHの各種事業に参加して，科学技術に興味・関心が増した」70%以上	(評価指標による達成度) ① 1年生79%，2年生72% 3年生72% (活動計画の実施状況) ① SSH研究発表会後にアンケート調査を行った。	(達成度) A  (所見) 概ね達成できた。	① SSHや理数科目への興味・関心が得られた。課題研究等の探究活動の意識付けができた。	① 1年生から継続的に探究活動に取り組むことで，より科学技術に対する興味・関心を高めるよう努める。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
3	人権教育 ① 基本的人権を尊重し、自他を大切にし、地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。	① 人権尊重の精神の涵養が図られるよう、教育活動全体の中で、人権教育を推進する。 (進路部・人権教育課)	① ホームルーム年間計画で予定した個人権課題に対応する学習を通して、生徒の人権尊重の精神の涵養を図る。ホームルーム活動(人権)において、人権委員が積極的な参加を促す。 ② 家庭・地域への積極的な啓発に努め、学校・家庭・地域が一体となって展開する人権教育活動を充実させる。	① 学校評価(生徒)人権教育に積極的に取り組んでいる、「そう思う」が昨年より5%アップ ② 学校評価(保護者)人権教育に積極的に取り組んでいる、「そう思う」が昨年より5%アップ	(評価指標による達成度) ① 0.02ポイント増(4.30→4.32) ② 0.03ポイント増(3.83→3.86)  (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施した。 ② 一部実施できなかった。	(達成度) B  (所見) 新型コロナウイルスの影響で保護者講演会を見送った。	新型コロナウイルス感染症予防対策のためZoom配信により実施した。生徒、保護者共に講演会の実施は人権啓発の機会となり人権活動を充実させるために効果的である。	生徒、保護者の講演会は時期や開催方法など柔軟に対応しながら1年に1回は実施し、人権教育の充実に繋げていきたい。 他の分掌の協力を得ながらオンラインなど機器を積極的に活用して人権教育活動を進める。
4		② 生徒一人一人の居場所があり、安心して過ごせる場所であると実感できるホームルームや学校全体の雰囲気づくりを行う。 (進路部・人権教育課)	②-1 教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ、人権感覚を磨くことができるよう校内外の研修への参加を積極的に行う。 ②-2 かぎまる人権dayで人権委員が挨拶運動や放送での呼びかけを行い、生徒の人権意識の高揚を図る。	① 学校評価(教職員)人権教育に積極的に取り組んでいる、「そう思う」が昨年より5%アップ ② 人権委員による挨拶運動を年7回実施する。	(評価指標による達成度) ① 0.04ポイント減(4.64→4.60) ② 8回実施  (活動計画の実施状況) ①② 計画通り実施した。	(達成度) B  (所見) 新型コロナウイルスのため教職員講対象の講演会が実施できなかった。	教職員全員を対象としたホームルーム事前研修会が職員間で定着してきた。各学年ごとの研究授業や公開授業も職員の指導力向上につながっている。 挨拶運動や「かべピカ運動」の積極的な参加を通して安心して過ごせるホームルームの雰囲気作りができています。	人権感覚を磨くため全員参加の教職員学年別研修をこれからも継続したい。 人権委員による挨拶運動や人権啓発新聞「じんけん」の作成やホームルーム活動の記録の記入を継続し、委員の自覚と人権意識の高揚を図る。
5	学習指導 ① 課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、生徒の個性を伸ばし、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 ② 社会的・職業的自立に必要な社会の変化に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。	① 基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。 (教務部・教務課)	① 学びの基礎診断認定ツールであるスタディーサポートを活用し、分析会を開き、生徒の実態把握に努める。その分析結果を基に、各教科ごとに課題を見極め、その課題を解決するために、教員の具体的な取組を定め実行する。	①-1 スタディーサポート実施教科については分析結果を基に校内学力向上のための実行プランを作成する。 ①-2 校内学力向上のための実行プランの最終評価値の平均3.2以上を目指す。	(評価指標による達成度) 校内学力向上のための実行プランの最終評価値平均が3.03であり目標まであと0.17足りなかった。 (活動計画の実施状況) スタディーサポートの分析結果を基に作成した校内学力向上のための実行プランを作成し実行した。	(達成度) B  (所見) スタディーサポートの分析結果を基に作成した校内学力向上のための実行プランの、PDCAサイクルを意識した活動に取り組んだが、目標まで少し届かなかった。	① 校内学力向上のための実行プランのPDCAサイクルを意識した活動を行ったが、目標を少し達成できなかった。生徒の授業に対する評価においては昨年度より0.49ポイントダウンしている。	① 生徒の授業に対する評価が0.49%とダウンしているが、一昨年と比較すると高い評価といえる。ICTの利用が定着しており、引き続き、普段の授業からさらに工夫してICTの活用に取り組んでいく必要がある。
6		② 普段の授業から、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせる。 (教務部・教務課)  ③ 将来を見据えた望ましい職業観を育成し、主体的・協働的に学習する態度を育てる。 (教務部・教務課)	② 教育活動の中で、生徒の実態に応じて、生徒タブレットを活用することで、授業での気づきや発見を大切に、自らの考えをまとめ、伝えることを通して他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。 ③ 類での専門教育や職業内容の研究を通して、将来の就職等への具体的な目標を持ち、その達成のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。また、実験・実習において他者と協働した学習活動を通して人間関係形成・社会形成能力を育てる。	②-1 今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の0.1ポイントアップを目指す。 ②-2 今年度授業評価における主体性(授業準備、授業態度、興味関心)のポイント数を昨年度の0.3ポイントアップを目指す。 ③-1 今年度授業評価における自己評価のポイント数を、昨年度の0.3ポイントアップを目指す。 ③-2 今年度授業評価における試験勉強と授業の積極性のポイント数を、昨年度の0.1ポイントアップを目指す。	(評価指標による達成度) ②-1 授業評価における自己評価の理解度が2.57ポイントダウンした。 ②-2 授業評価における主体性(授業準備、授業態度、興味関心)が2.84ポイントダウンした。 (活動計画の実施状況) 電子黒板の利用は定着しているが、タブレットの活用は十分に進んでいない。	(達成度) B  (所見) 電子黒板やタブレットの活用を呼びかけるも通信状況に課題があり使用方法が制限されてしまう場面が多く見られた。	② 生徒の授業に対する評価において主体的な活動が昨年度より0.15ポイントアップしていることから、主体的に学ぶ場面を取り入れた授業が実施されている。しかし、通信環境面の課題が影響しているとも考えられ、現状にあった学習課題の検討が必要である。	② 引き続き電子黒板を積極的に活用し、タブレット端末を授業に活用した学習を工夫することで、対話的で深い学びに繋がっていききたい。
7		④ 読書の奨励を図り、基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。 (教務部・教育情報課)	④ 図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	④ 図書貸出数が月間300冊以上を目指す。	(評価指標による達成度) ④ 図書館オリエンテーション(1学年)図書館だより発行(10回)コース別推薦図書リスト作成(4種)図書展示・読書推進イベント・県立図書館との連携・読書感想文課題の実施・各種	(達成度) B  (所見) 月間貸出冊数は目標値に届かなかった。	④ 新入生オリエンテーションや広報、展示・イベントを通して図書館の利用を働きかけたが、あまり貸出数に繋がらなかった。長引く新型コロナウイルスの影響から、図書館で本を借りて読書をす	④ 高校生活を通して読書週間を身につけさせるためには、1年生への利用の働きかけが重要であると考えられる。教科担任や各コースの教員と連携して取り組んでいきたい。

					コンクール応募案内・図書委員会活動：推薦図書POP作成（2回）	るという習慣を身につけることが難しくなっていることも要因として考えられる。
--	--	--	--	--	---------------------------------	---------------------------------------

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
8	生徒指導 ① 基本的な生活習慣を身につけさせ、全教職員が温度差のない指導が行えるようにするとともに、家庭との連携を密にする。	① 基本的な生活習慣の確立を図り、時と場にふさわしい礼儀・挨拶・言葉遣いを身につけさせるとともに、遅刻回数の減少から規則正しい生活リズムを構築させる。 (指導部・生徒課) ② 定期的に規律指導を行い、ルール遵守から集団生活の規律向上に努める。自ら率先して考え、判断・行動のできる能力を育てる一助とする。 (指導部・生徒課)	① 遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により、規則正しい生活習慣を身につけさせ、問題行動の未然防止に努める。 ② 外来者への挨拶を徹底する。また、集会時において、8Sの一つである「躰」を徹底する。 ③ 一人一人が充実した学校生活を送る中で、自分を大切にすることが他人を思いやることにつながることを気づかせるとともに、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WEB関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを実施することで、心の躰を向上させる一助とする。	① 月間登校時遅刻率を1.0%未満とする。(1日当たり9.0人)遅刻の多い生徒については月4回以上で個別指導、月8回以上で保護者を交えての指導を行う。 ② 規律指導を毎月初めに実施し、指導を徹底する。各回とも違反者については、一定期間内で完全に直させる。規律指導の週に、コース長や学年主任(学年副主任)、当日日直、生徒課員で正門における登校時身だしなみ指導を実施する。 ③ 毎時の休憩時間において輪番制による校内巡視を実施し、各教室の施錠および生徒の生活状況を確認し防犯等に努める。また、HR担任と日直が連携し、放課後の教室施錠を徹底する。 ④ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話やゲーム依存ネット障害や携帯電話(WEB関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを開催し、生徒の意識高揚と知識の定着を図る。	(評価指標による達成度) ① 1日の遅刻者平均は、2.49人で0.29%であった。 ② 毎月初めの週に実施し、登下校時身だしなみ指導を類・コース長、学年主任で行った。 ③ 各授業開始直後や放課後に各教室の施錠確認及び校内巡視を実施した。また、昼休み時間は、校内の主要な門において巡視も行った。 ④ 各種講演を行い生徒への啓発を行った。  (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施できた。 ② 担当教員と連携し計画通り実施できた。 ③ 担当教員と連携し計画通り実施できた。 ④ 計画通り実施できた。	(達成度) B  (所見) 計画通り実施できた。	① 数値的には目標達成することができた。基本的な生活習慣を意識できたと考えられる。 ② 登下校時の身だしなみは正せ、再登校指導もほとんど無く服装・頭髪を正す意識付けができた。 ③ 各クラスの施錠状況は比較的良かったものの、特定のHRの指導が必要となった。 ④ スマホルールの遵守にHR間の温度差を感じた。	① 1日の遅刻者平均を本年度同様、1.0%未満(1日当たり9.0人)とし、本年度以上の数値を目標とする。 ② 本年度通り実施し、校内でも身だしなみが維持できるように、教職員全員で連携し注意喚起する。 ③ 本年度通り巡視態勢を継続し実施する。施錠しなければならない理由と責任を指導し、生徒に周知する。 ④ スマホルール遵守の徹底について生徒会と連携する。
9	② 生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整え、自己実現の一助とし、交通道德を遵守させ、登下校時の交通安全導を徹底させる。	① 教育活動全体を通して、全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 (指導部・生徒課) ② 「学校安全の日」、「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して、交通安全教育の一層の徹底を図る。 (指導部・生徒課)	① 定期的に校内巡視を行い、いじめの未然防止に努める。またいじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。 ② 毎月20日を「学校安全の日」とし、教職員や保護者、生徒課員が連携して、通学時に混雑が予想される場所において登校指導を行うとともに、自転車点検や駐輪場での施錠確認、駐輪状態確認を行い、交通安全教育を充実し、道路交通法を遵守させるために、生徒を主体とした交通マナーアップ運動の推進を図る。	① 各学期末に、年合計3回のいじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し、生徒の生活状況を確認する。 ② 年間を通して、日直と生徒課員が、正門を含む学校近隣において、登下校指導を行う。特に、毎月20日には、輪番制で各学年PTA役員と教職員が共同で登校指導を行う。 ③ 生徒会や生活委員による挨拶運動と交通委員による駐輪場の整理・整頓を行うとともに、年間5回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身につけさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を行う。	(評価指標による達成度) ① 年間行事の各学期末に、HR活動の時間を設定し、いじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。 ② 年間5回の自転車点検を行った。生徒会や各種委員と連携した取組を行うことができた。特に、万一事故が起こってもあわてずに対応できるように、事故状況メモのカードを全生徒に携帯させた。  (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施できた。 ② 計画通り実施できた。	(達成度) B  (所見) 計画通り実施できた。	① アンケート調査結果から、生徒からの相談、悩み、情報提供を受けて、組織的に対応し解決の糸口となった。 ② これまでの登下校指導や交通安全指導などにより、歩行者や近隣住民に道を譲ることができるようになった。本年度、徳島名西警察署と連携し独自の交通マナーアップ運動を行った。	① 本年度通り実施する。常に「いじめは絶対に許さない」という強い信念を持ち、些細な生徒からのシグナルを見落とさないように心掛けておく。 ② 登下校指導を全教職員が協力し、実践できる指導体制を確立していく。また、駐輪場における自転車の施錠・整理整頓、交通マナーの向上を各種委員会と連携するなか強化していく。引き続き万一事故が起こってもあわてずに対応できるように、事故状況メモのカードを全生徒に携帯させ、自転車事故減少に努めていく。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
10	進路指導 ① 将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と、生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導	① 進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① HRへ各種進路情報を提供する。(模試・ガイダンス・推薦・求人・工場見学等)	① HRへの情報の提供 満足度80%以上	評価指標による達成度) ① 本年度のアンケートの結果から生徒95.1%、保護者86.0%の満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 進路に関する情報提供は必要に応じて随時実施をしている。	(達成度) A  (所見) ① 概ね達成できた。	① 企業や大学の訪問等を実施し、情報収集に努めた。進路に関する情報を教員間また生徒と共有することで、生徒自らが進路を考えるきっかけとすることができた。	① 生徒の満足度に比較して保護者の満足度が約10%低くなっているため、次年度は三者面談等の充実など保護者に対する情報提供方法の検討を考える必要がある。
11	② 求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。  ③ 進路達成に向けて学習指導の充実を図る。	② 生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に対応した組織的・継続的な進路指導を展開する。 (進路部・就職課・進学課)	② 生徒一人一人の理解を深めるために個人面談や三者面談を実施する。また、生徒の希望や能力に応じた進路希望を実現するため、進学・就職補習および進路相談を充実させる。	② 適性・希望に対応した進路指導に対する満足度80%以上 就職内定率100%	(評価指標による達成度) ① 本年度のアンケートの結果から生徒91.7%、保護者83.5%の満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 進路希望調査を年2回実施し、進学補習も年間を通じて計画通り実施できた。また、就職においては11月中旬に内定率100%を達成できた。	(達成度) A  (所見) ① 概ね達成できた。	① 三者面談及び家庭とも連絡を密にすることで生徒の希望・適正に応じた指導を随時実施することができた。その結果、就職においては内定率100%、進学においては過去最高の46名の国公立大学合格者をだすことができた。	① 今年度と同様の結果を残すことができるように計画を立てて取り組む必要がある。キャリア・パスポートを活用し年間をとおして、生徒たちが自己理解を深める機会を設ける。
12		③ ICTを利用して、生徒の学校や家庭での生活を把握し、改善に努める。 (進路部・就職課・進学課)	③ ICTを利用して、学習記録や考査等のテスト成績を記録し、HR担任と生徒・保護者との面談の資料として活用し、主体的な取組が行えるように促す。	③ 科学系の平日の家庭学習時間を2時間以上、休日の家庭学習時間を3時間以上	(評価指標による達成度) ① 生徒用タブレットの導入などICTの活用が進み、積極的な取組につながった。 (活動計画の実施状況) ① 定期的に学習記録や活動記録を記入させたり、課題や模試対策問題を配信したりすることで家庭学習時間を確保した。	(達成度) B  (所見) ① 概ね達成できた。	① 生徒用タブレットを積極的に活用することで家庭で課題の学習をすることができるなど、学習面の環境が充実した。また保護者、生徒への的確な連絡に役立った。	① ICTの重要性を感じるようになったので、教員のスキルアップを目指し、次年度も積極的に活用の幅を広げていき、さらなる活用方法を探る。
13		④ 進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 (進路部・就職課・進学課)	④ 生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。また、進路講演会等により、勤労観、職業観を養い、職業に対する意識の高揚を図る。	④ 進路ガイダンス実施後 満足度 80%以上 進路講演会等実施後 満足度 80%以上	(評価指標による達成度) ① 生徒は95.1%、保護者は86.0%の満足度であった。 (活動計画の実施状況) ① ガイダンスに関しては、コロナの影響で一部実施できないものもあったが可能な範囲で実施することができた。	(達成度) A  (所見) ① 概ね達成できた。	① 講演会をとおして、生徒たちが自分の将来の生き方や進路について考える機会となった。	① 対面式ガイダンスの機会を確保し、生徒たちのコミュニケーション能力を向上させる。また、生徒の意識向上に繋がるガイダンスや講演会を実施し、キャリア発達を促す教育を行う。
14	教育相談・特別支援教育 ① 相談・支援活動を充実させる。	① 生徒の変化を見逃さない。 (指導部・教育相談課)	① 生徒の出席状況の把握と支援の検討 ② 専門機関との連携	① 欠席の続く生徒に関して適切な対応を検討する。 ② 必要に応じて専門機関との連携を図る。	(評価指標による達成度) おおむね達成できた。 (活動計画の実施状況) ① 欠席状況を関係教員と連携できた。 ② 専門機関と連携し、指導を受けることができた。	(達成度) B  (所見) ほぼ計画通りにできた。	① 学校と保護者、カウンセラーが情報共有のもと、対応することができた。 ② 専門的な指導を受け、教育活動に取り組んだ。	心理的な理由による欠席者が増えてきている。早期に生徒の問題を見つけ、スクールカウンセラー等を活用した対応を行う。
15		② 相談活動を充実させる。 (指導部・教育相談課)	① 教育相談室の放課後利用  ② 相談事業の広報	① 放課後に相談室を開室する。スクールカウンセラーを活用した教育相談室の利用を図る。 ② 「ほっとだより」を各学期1回以上発行する。	(評価指標による達成度) おおむね達成できた。 (活動計画の実施状況) ① 1年生全員にストレスについての授業を行い、心の健康について考えることができた。 ② 「ほっとだより」を各学期発行することができた。	(達成度) B  (所見) ほぼ計画通りにできた。	① 生徒が自身のストレスについて考え、カウンセリングについて理解が深まった。 ② わかりやすく情報提供することができた。	① 心の健康について、正しい理解と予防教育を働きかける。 ② 「ほっとだより」の発行回数を増やす。
16	環境教育 ① 各クラスの環境整美委員会を中心に、HR担任や清掃	① 日々の清掃活動の充実を図り、美しい環境が整った学校づくりに努め、次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃	① 校内美化週間期間中、環境整美委員会を中心に清掃の徹底、ゴミ分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓等丁寧に行う。 ② 学校行事(体育祭、文化祭)な	① 日頃の清掃、ゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓がなされたか。 ② 校内への泥汚れ侵入禁止 ③ 学校行事(体育祭、文化祭)	(評価指標による達成度) ①-1 日頃の清掃状況について毎日清掃が良くてできた。90% ①-2 ゴミ分別が良くてでき	(達成度) B  (所見) 評価指標関係	①-1 日頃の清掃活動について「多少改善点はあがるが良くてできた。」 ①-2 ゴミ分別について「多少改善点はあるが	① 各クラスの環境整美委員会を中心にHR担任や清掃分担の教員の協力のもと指導の徹底を行う。また、アンケート調

	<p>分担の教員の協力のもと日頃の清掃指導の徹底を行う。</p>	<p>で心を磨く科技高生」の実践を行う。 (特活部・環境教育課)</p>	<p>どの際に発生する、ゴミ問題について、環境整美委員会を中心とした環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り、自分のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。</p>	<p>などの際、環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナーが守れたか。</p>	<p>た。94% ①-3 掲示物、ロッカーの整理整頓が良くなった。 94% ①-4 トイレの使用状況が多少悪化しているように思う。 ②学校行事について ②-1 体育祭でのモラルやマナーが守られた。 97% ②-2 文化祭でのゴミ分別は守られた。90% (活動計画の実施状況) ① 各クラスの環境整美委員会を中心に清掃の徹底・ゴミ分別の徹底によく取り組んだ。 ② 学校行事について環境整美委員は、体育祭、文化祭共清掃や啓発活動を率先して頑張った。</p>	<p>について、多少改善しなくてはいけない。 ① 清掃の徹底・掲示物・ロッカーの整理整頓に多少の改善点が必要である。 ② 毎日のトイレ清掃は、概ね達成できた。 ③ 体育祭のモラルやマナーが多少改善したように思う。 文化祭については、多少改善しなくてはいけない。</p>	<p>良くできた。」 ①-3 掲示物、ロッカーの整理整頓「多少改善点はあるが良くできた。」 ②学校行事について ②-1文化祭 「校内でのゴミ散乱が少しあった。」 ②-2体育祭 「競技場内でのゴミ散乱が少しあった。」</p>	<p>査等で清掃分担場所の清掃状況を把握し、環境美化週間等に反映していきたい。 ② 学校行事の体育祭では実施場所が田宮陸上競技場で行われたこともあり、例年以上に啓発活動を実施していかなければならない。 ③ 環境整美委員会は随時開催していきたい。</p>
17	<p>防災教育 ① 防災委員、防災クラブの活動をベースとして、災害時に命を失わない、役に立つ心を育成する。</p>	<p>① 地域と共に防災活動を行い、社会の一員として、求められている防災マインドを育てる。 ② 災害時を含め、社会で主体的に動ける心を育てる。 (防災教育)</p>	<p>① 地域と共催の防災訓練を企画、実行する。 ② 災害時に必要な器具等を使う訓練を日常から行う。</p>	<p>① 2カ所以上の他団体と共催し200名以上の参加を目指す。 ② 炊き出し訓練や日頃の準備として、効率面、衛生面、実用面などを考慮した器具等を選別、使用出来ることを目指す。</p>	<p>(評価指標による達成度) ① 今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域・他団体と共催できなかった。 ② 衛生面や効率等については、昨年と変わらない状況であり、器具等も昨年のもを使用した。 (活動計画の実施状況) ①② 炊き出し訓練では新型コロナウイルス感染拡大防止策を図りながら、3年生と本校職員を対象に実施した。</p>	<p>(達成度) B (所見) ①② 新型コロナウイルス感染拡大のため目標を達成することはできなかったが、炊き出し訓練や避難経路、初期対応については充実したものにできた。</p>	<p>① 生徒や教職員に本校が地域防災の拠点として、役割や責任を担う意識が広がってきた。 ② 地域住民からは、来年度は炊き出し訓練や合同避難訓練の要望が寄せられた。</p>	<p>① 避難訓練だけでなく防災士養成講座などの参加者が多くなるよう、学校のホームページや地域の回覧板を利用して、広報普及活動を充実させる必要がある。</p>

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
18	<p>保健安全教育 ① 保健安全に関する指導・情報提供を行う。</p>	<p>① 生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。 (特活部・保健厚生課)</p>	<p>① 定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。</p>	<p>①-1 定期健康診断受診率100% ①-2 保健だよりの発行(月1回)</p>	<p>(評価指標による達成度) ①-1 定期健康診断受診率99% ①-2 保健だよりの発行100% (活動計画の実施状況) ①-1 未受診者に対して学校医・歯科医の協力により、受診率を99%にすることができた。 ①-2 保健だよりを月1回発行</p>	<p>(達成度) B (所見) 新型コロナウイルス感染症流行のため、定期健康診断の実施を数回延期することになり、実施時期が例年より大幅に遅くなった。また、長期欠席等で、全員が受診することができなかったものもあった。</p>	<p>①-1 新型コロナウイルス感染症流行のなか、学校医・歯科医の協力もいただき、延期を繰り返しながらも定期健康診断を実施することができた。 ①-2 月毎の保健だよりだけでなく、健康診断や修学旅行等の学校行事により、適宜を捉えた情報提供が行えた。</p>	<p>①-1 定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率100%をめざすと同時に、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。 ①-2 引き続き、月毎の保健だより発行だけでなく、学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。</p>
19	<p>特別活動 ① 特別活動への生徒の自主的な取組を充</p>	<p>① 生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実に努め、集団活</p>	<p>① 生徒による集会時の司会進行、記録、挨拶を今以上に取り入れ、自主的に運営できるように指導する。</p>	<p>① 生徒総会、壮行会、予餞会を生徒が100%運営する。</p>	<p>(評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況)</p>	<p>(達成度) B (所見)</p>	<p>① 教師の指導の下、行えていた。 ② 二年連続で感染対策のため公開できなかった。</p>	<p>① 生徒自らの取組を重視して行う必要がある。話し合いなどの時間も必要である。</p>



	実させる。	動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。 (特活部・特別活動課)	② 文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り、生徒が意欲的に取り組む学校行事を目指す。 ③ みちピカ事業で周辺地域への清掃奉仕活動を行い、仲間と協力して活動ができる能力を身につける。	② 文化祭への生徒の満足度 90% 体育祭への生徒の満足度 85% ③ みちピカ事業参加者 平均70名	コロナ禍で感染対策を十分に行った上で生徒の活動をできる限り重視して行った。	コロナウイルス感染防止対策のため、予餞会等を縮小して行った。	そのためコース展などがあまりされていなかった。 ③ 感染対策のため、学年を限定して行った。	② 入場制限ではなく、十分な感染対策を行い、多くの人に訪れてもらう必要がある。 ③ 生徒会の人数を増やしてもっと少数の班で行うなどの工夫が必要。
20	② 部活動の更なる活性化を図る。	② 部活動を充実・活性化させ、日々の活動を通して精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力心を育成する。 (特活部・特別活動課)	① 部紹介・体験入部を実施し、部活動の入部を促進する。 ② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報し、生徒の意欲を高め、校内の共通理解・協力体制を強化する。	① 入部率80%以上 ② 表彰伝達を毎月行う。	(評価指標による達成度) A  (活動計画の実施状況) 感染対策を行った上で、Zoomで行った。	(達成度) A  (所見) 活動が難しい環境下でそれなりの活動ができた。	① 運動部・文化部・生産部の兼部している生徒が多かった。 ② Zoomで行ったので、十分に広報できているか不安である。	① 入部率は申し分ないが、活動内容を充実させたい。 ② 日々の部活に対する取組を重視し、結果に繋がるような取組を行う。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
21	工業・水産教育 ① 工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。	① 工業・水産教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。 (各類・コース)	・情報科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・情報科学コース ① 大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年3回以上実施する。	・情報科学コース (評価指標による達成度) 大学訪問1校、研究所訪問1カ所実施 課題研究で高大連携実施 (活動計画の実施状況) 概ね予定通り実施できた。	・情報科学コース (達成度) B (所見) 概ね予定通り実施できた。	・情報科学コース 新入生の進学への意識を高めることに役立った。Spring-8を見学することで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。	・情報科学コース 生徒の進学意識の高揚に効果があることから継続して取り組みたい。新たな大学や研究所訪問を実施できるように次年度の計画を立てたい。
			・環境科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・環境科学コース ① 大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年3回以上実施する。	・環境科学コース (評価指標による達成度) 大学や研究施設等への訪問を実施及び課題研究で高大連携。オンラインによる大学説明会実施  (活動計画の実施状況) 大学訪問は年3回実施できなかった。	・環境科学コース (達成度) B (所見) コロナ禍の状況において実施が難しかった。	・環境科学コース 個人的に大学のオンライン講義等に参加するようになってきた。	・環境科学コース I T環境の整備が望まれる。
			・機械コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密し、キャリア教育につなげる。	・機械コース ① 2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。	・機械コース (評価指標による達成度) 2年生のインターンシップについては40.0%の生徒に対して実施した。 (活動計画の実施状況) クラス全体の進路に対する意識向上になった。	・機械コース (達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	・機械コース 授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。特に、インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	・機械コース 来年度も同様にインターンシップを実施し、キャリア教育を推進するうえで、生徒ができるだけ関心を持つことができるよう工夫する。
			・生産システムコース ① インターンシップを通じて技術者として働くことを体験する。参加については参加者の自主性を重んじることに重点を置く。	・生産システムコース ① インターンシップは2年生の就職希望者の30%以上に対して実施する。	・生産システムコース (評価指標による達成度) A  (活動計画の実施状況) 就職希望者の67%の生徒が2日間のインターンシップに参加することができた。	・生産システムコース (達成度) A (所見) 少人数のインターンシップ計画で無事に実施できた。	・生産システムコース 企業からも、本年度は実施できた事を喜ばれた。生徒も、就職に向けて、貴重な職業体験ができ、良い機会となった。	・生産システムコース 今後も実施できるよう、企業との連携を図り、より充実したものとなるように実施していきたい。
			・電気コース ① 生徒の視野を広め、主体的な進路選択につながるような機会として、会社見学・インターンシップを実施する。	・電気コース ①-1 各学年1回以上の企業見学 ①-2 インターンシップ2社以上の実施	・電気コース (評価指標による達成度) ①-1 達成できず。 ①-2 達成した。  (活動計画の実施状況) ①-1 各学年において実施で	・電気コース (達成度) B (所見) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、	・電気コース ①-1 職業観、勤労観の育成、進路選択に向けた準備を行う観点から実施できなかったのは残念である。	・電気コース 生徒にとって進路選択に向けた良い機会となるため、受け入れ先企業の開拓を行い、計画的に実施したい。

		<p>きなかった。 ①-2 3社で実施し、計10名が参加した。</p>	<p>企業見学は実施できなかった。</p>	<p>①-2 昨年度より1社増やせたことは有益である。生徒にとって、進路選択に向けた意義のある結果となった。</p>	
<p>・情報通信コース ① インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。</p>	<p>・情報通信コース ①-1 企業・大学訪問を実施する。 ①-2 インターンシップにHR生徒の2割以上の参加を目指す。</p>	<p>・情報通信コース (評価指標による達成度) ①-1 企業訪問は実施できたが大学見学は実施できず。 ①-2 3割の生徒が参加(活動計画の実施状況) ①-1 工場系に就職希望の生徒7名が見学に参加 ①-2 1社17名が参加</p>	<p>・情報通信コース (達成度) A (所見) コロナの影響で大学に行けず残念であった。</p>	<p>・情報通信コース ①-1 施設見学や話を伺うことで進路を考えるよい機会となった。 ①-2 インターンシップ先として本年度より通信工事会社を追加し、生徒の選択肢を広げることができた。</p>	<p>・情報通信コース ①-1 次年度は是非とも大学の訪問を実現したい。 ①-2 来年度も複数の企業へのインターンシップを実現したい。</p>
<p>・環境土木コース ① 関係機関との連携を図りながら、インターンシップを実施し、生徒の専門に関する知識と進路選択に役立てる。</p>	<p>・環境土木コース ①-1 インターンシップ参加生徒数を2年生で40%以上とする。 ①-2 インターンシップ報告会、課題研究発表会を実施する。</p>	<p>・環境土木コース (評価指標による達成度) A (活動計画の実施状況) 65%の生徒がインターンシップに参加し、クラス全体の進路に対する意識向上になった。</p>	<p>・環境土木コース (達成度) A (所見) 企業の協力で実施することができた。</p>	<p>・環境土木コース ①-1 企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、生徒にも好評であった。 ①-2 報告会によって各企業の様子や業務内容について共通理解することができた。</p>	<p>・環境土木コース 今後も継続して実施していきたい。</p>
<p>・建築コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。</p>	<p>・建築コース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.5以上を目指す。 ①-3 3学期に課題研究発表会を行う。</p>	<p>・建築コース (評価指標による達成度) 26名中10名が参加し、満足度も高く、目標を達成することができた。 (活動計画の実施状況) 見学や体験を通し、建築業の仕事内容への興味や専門教科に関心を持つことができた。また、課題研究発表会は建築コース展の中で実施し、研究成果を発表することができた。</p>	<p>・建築コース (達成度) A (所見) インターンシップは生徒の希望に合う企業に依頼することができ、成果があった。また、昨年に引き続き建築士会と連携し設計コンペに参加することができた。</p>	<p>・建築コース インターンシップを通して、生徒は働くことや進路について真剣に考えることができた。また、社会の一線で活躍する建築士会の方とのディスカッションを通して、建築業に対して理解を深めることができた。</p>	<p>・建築コース 企業との連絡を密に取り、インターンシップの機会を継続して持ちたいと考えている。また、建築士会との連携を次年度も継続し取り組んでいきたい。</p>
<p>・総合デザインコース ① インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 ② 実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、対外的な活動を更に充実させる。</p>	<p>・総合デザインコース ① インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ②-1 令和4年度コース展を実施し、地域・中学校などにPRする。 ②-2 それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み、成果を出す。</p>	<p>・総合デザインコース (評価指標による達成度) 18名中2名が参加し、生徒の進路選択に役立てることができた。 (活動計画の実施状況) コース展を実施した。また6次産業化実践教育ステップアップ事業において、地域、中学生に向けて活動をPRするため各校と連携した。</p>	<p>・総合デザインコース (達成度) A (所見) 各種コンペに積極的に参加し、四国や全国レベルの大会で上位入賞を果たした。</p>	<p>・総合デザインコース インターンシップでは、参加生徒にとって貴重な職業観を育てる機会となった。各種コンペで上位入賞や全国大会での入賞など、課題研究での成果をあげることができた。</p>	<p>・総合デザインコース インターンシップでは、今後も続けていきたい。コンペへの参加も引き続き取り組んでいきたい。</p>
<p>・海洋科学コース ① フィールドワークを積極的に実施するとともに、関係機関と連携した出前授業や施設見学を実施し、水産・海洋分野に興味・関心をもたせる。 ・海洋総合コース ① 企業や研究機関との連携を密にするとともに、地域資源や実習船等を活用した教育活動を実施し、水産・海洋分野への進路選択に役立てる。</p>	<p>・海洋科学コース ①-1 漁業体験やフィールドワーク等を各学期1回以上実施 ・海洋総合コース ①-1 船舶関連のインターンシップを年1回以上実施 ①-2 地域における漁業体験や実習、フィールドワーク等を各学期1回以上実施</p>	<p>・海洋科学コース ・海洋総合コース (評価指標による達成度) 概ね達成することができた。 (活動計画の実施状況) 水産研究課での未利用魚の調理実習1回、徳島大学と水産研究課の出前授業1回、志和岐港フィールドワーク2回、美波の海の恵み研究会と連携して漁場調査2回を実施した。</p>	<p>・海洋科学コース ・海洋総合コース (達成度) B (所見) コロナ禍の影響で実施できなかった取組もあったが、少しずつ以前の状態に近づいている。</p>	<p>・海洋科学コース ・海洋総合コース ① 関係機関との連携をとおり、SSH課題研究のテーマ設定や水産業の現状と課題について生徒に興味・関心を持たせることができた。</p>	<p>・海洋科学コース ・海洋総合コース ① 次年度も関係機関の連携を密にして継続して取り組んでいきたい。</p>

22	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。	① 工業や水産に関する専門的な技術の習熟度を高め、技能の向上を図る。(各類・コース) ② 専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。(各類・コース) ③ 各種競技会等へ積極的に参加し、専門技術等を高める教育を展開する。(各類・コース)	・全類全コース ① 各コースの実態に即して、技能検定等の実施やものづくりコンテストへの出場を目指す中で、技術の向上に努める。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。	① 各コース毎に、技能の向上を目指した取組をする中で、各種コンテスト・大会へ出場し、各専門分野での上位入賞を目指す。 ② 工業系では、「ジュニアマイスターゴールド」取得者15名以上、「ジュニアマイスターシルバー」30名以上を目指す。	(評価指標による達成度) (工業) ① 高校生ものづくりコンテスト県大会では各種目とも上位入賞を果たした。コンクリート甲子園では、全国優勝を果たした。 ② ゴールド4名(昨年11) シルバー16名(昨年38) ブロンズ21名(昨年38) 特別表彰0名(昨年3)	(達成度) (工業) ① A ② C (海洋) ① C ② B (所見) (工業) 昨年度程度の結果を達成することができた。 (海洋) ① 生徒の研究の成果が十分でない状態での発表となってしまう。 ② 海洋情報技術検定については合格率が低くなってしまう。	(工業) 各コースにおける実習等でのスキルの向上や資格取得のための補習を計画的に実施した。ジュニアマイスターについては、取得数が減少傾向にある。 (海洋) ① 生徒のプレゼンテーション能力の向上を図ることができた。 ② 各検定は授業内容とも密接に関係している内容であり、授業で学んだ知識や実習で身につけた技術を定着させるよい機会となった。	(工業) 次年度へ向け実習等のスキルの向上とともに、資格取得においては合格率の向上を図るため、補習方法や生徒の目的意識を醸成していく必要がある。 (海洋) ① 専門家の意見も取り入れて、研究内容向上を図っていききたい。 ② 冬休みの宿題やClassiでの配信も活用して取り組んだが、十分成果をあげることができなかった。模擬試験を充実させて、筆記試験対策に力を入れていききたい。
		・情報科学コース ① 科目「実習」においては、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。	・情報科学コース ① 期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ② 情報技術検定2級の合格率が80%以上。ITパスポート試験合格5名以上。基本情報技術者試験合格2名以上	・情報科学コース (評価指標による達成度) ① 提出率98% ② 情報技術検定2級86% ITパスポート合格1名 基本情報技術者合格なし(活動計画の実施状況) 週一回の実習を行い、その都度レポートを提出させた。計画的に各補習を行い受験させた。	・情報科学コース (達成度) B (所見) ほぼ全員が期限までに提出できた。情報技術検定は目標を達成できたがITパスポートや基本情報は達成できなかった。	・情報科学コース 大多数の生徒が実習後、速やかにレポート提出を完了する習慣を身につけた。 口頭試問により内容の理解度も上がった。資格試験に合格することで生徒の自信となり、学習意欲の向上に繋がった。	・情報科学コース レポート提出の習慣が身につく口頭試問をすることで理解度が向上した。情報技術検定は計画的に補習をすることで合格率の向上に繋がった。ITパスポートや基本情報については補習の時期や受験の時期を再考する必要があると感じている。	
		・環境科学コース ① 科目「実習」においては、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ③ 科学論文発表(ポスター発表)を目標に積極的に取り組む。ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・環境科学コース ① 期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ② 危険物乙4の取得率が80%以上を目指す。 ③ SSH発表会(校内、県、四国)での発表を目指す。ものづくりコンテスト四国大会に出場し上位入賞を目指す。	・環境科学コース ① 提出率99% ② 各学年の乙4取得率 1年 60.0% 2年 78.6% 3年 56.3% ③ 動画による県大会、四国大会で発表した。奨励賞を受賞 (活動計画の実施状況) ① 実習の都度レポートを提出させた。 ② 放課後等の各補習を行い受験させた。 ③ 動画による県大会、四国大会で発表した。奨励賞を受賞	・環境科学コース (達成度) B (所見) ① ほぼ全員の生徒が期限を守った。 ② 資格試験については2学年の取得率が向上した。 ③ 今年度は発表会・コンテストを行った。	・環境科学コース ① ほとんどの生徒が、期限内にレポート提出する意識が身につけている。 ② 資格取得については、学習への意欲につながると思えるため、卒業まで目標に向かって指導していききたい。 ③ 発表会やコンテストに参加することが、日常生活においても、自信につながっている。	・環境科学コース 資格試験や各教科の指導については、デジタルコンテンツの活用等、IT技術を取り入れて、学力向上を図っていききたい。	
		・機械コース ① 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施し、合格率のアップを図る。 ② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・機械コース ① 2級ボイラー技士(2年)の合格率を補習出席者の60%以上。機械製図検定(3年)の合格率を65%以上を目指す。 ② ものづくりコンテストで、県内優勝し、四国大会に進出する。また、四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き、本大会に出場する。	・機械コース (評価指標による達成度) ① 2級ボイラー技士は12%にとどまったが、機械製図検定は66%となった。 ② ものづくりコンテストで、四国大会に進出。四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き、本大会に出場した。 (活動計画の実施状況)	・機械コース (達成度) B (所見) ① 2級ボイラー技士が目標を達成できなかった。 ② ものづくりコンテストでは全国大会に出場でき、目標以上の結果を残せた。	・機械コース ① 2級ボイラー技士試験は、半年以上の長期にわたって早朝・放課後の補習を行うため、学習する習慣づけや学習の場としてのクラスの雰囲気作りにも効果があった。 ② ものづくりコンテスト、四国地区高校生溶接技術競技会ともに機械コースの機械工作部員が手分けして出場した。このこと	・機械コース ① 生徒と企業の現状に合わせ、資格を検討する必要がある。 ② 各種大会・コンテストへの出場については、練習に危険性が伴うため、安全対策・安全指導を絶えず心がける必要がある。	



		朝補習, 放課後補習, 夏季休業日中の補習等を実施し対応		により, 専門分野において非常に高度な技能を身につけることができた。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システムコース</li> <li>① メカトロニクス関連企業に就職する際, 学習していて良かったと評価されるような実習をしっかりと実践する。</li> <li>② 各種の技術的なコンテストに応募出場し, 賞を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システムコース</li> <li>① シーケンスなどの制御関連や3Dプリンタを活用した学習を充実させる。</li> <li>② ロボット競技など, 全国大会出場を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システムコース (評価指標による達成度)</li> <li>① 新しい技術であるが, 毎年ノウハウを積み進んでいる。</li> <li>② ロボット競技は3年ぶりに大会が参集して実施された。今年度もロボット甲子園に出場した。(活動計画の実施状況)</li> <li>① 新しい技術である3Dプリンタ等も軌道に乗って課題研究での利用頻度が増えた。</li> <li>② ロボット競技は県内3位, ロボット甲子園は4名参加で四国大会最優秀賞となり, 全国大会に出場した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システムコース (達成度) B (所見)</li> <li>①②を通してのことであるが, 本コースの職員と生徒は, 常にチャレンジ精神に富んでいる。そういった前向きの姿勢を大切にしていきたい。結果がロボットアイデア甲子園の全国大会につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システムコース</li> <li>挑戦を続けることで, 職員も生徒も常に学ぶ姿勢を大切にしている。今は大きな成果は出せてないが, 今までの積み上げてきた経験から少しづつよい結果ができてきていると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システムコース</li> <li>本年度は施設設備の多くが一新され, この最新の機器を使用して, 最新の教育を, 最大の教育効果として発揮させるべく, 多くのことに挑戦していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電気コース</li> <li>① 資格試験に計画的に取り組み, 適切な指導を行い合格率を上げるにより, 知識・技能の向上と, 主体性の確立を目指す。</li> <li>② ものづくりコンテストに出場することにより, 技能の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気コース</li> <li>① 1学年の第二種電気工事士合格率90%を目指す。</li> <li>② 県大会2位以内, 四国大会入賞を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気コース (評価指標による達成度)</li> <li>①達成できた。</li> <li>②県大会 達成した。四国大会 達成できず。(活動計画の実施状況)</li> <li>①合格率98%</li> <li>②県大会 優勝 四国大会 入賞できず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気コース (達成度) B (所見)</li> <li>第二種電気工事士の取得は概ね順調であった。ものづくりコンテストの四国大会では, 日頃の練習の成果が十分に発揮できず, 残念であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気コース</li> <li>① 問題演習を繰り返すことで理解を深め, 合格につなげることができた。</li> <li>② 選手にとって良い経験であったと思われる。当該年度の課題に対して, 時間内に完成させるための工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気コース</li> <li>① 引き続き90%以上を目標とする。</li> <li>② 入賞に向けて対策を練る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信コース</li> <li>① 資格取得を奨励し, 資格補習を計画的に実施する。</li> <li>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信コース</li> <li>① 国家資格取得を目指し, 一人2つ以上の資格を取得する。</li> <li>② ものづくりコンテスト電子回路部門において四国大会で入賞を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信コース (評価指標による達成度)</li> <li>① 3年生の93%の生徒が国家資格を取得した。</li> <li>③ 四国大会参加 (活動計画の実施状況)</li> <li>① 1, 2年生に対して補習を実施</li> <li>② 四国大会で惜しくも入賞を逃す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信コース (達成度) B (所見)</li> <li>来年度は, 四国大会入賞を目指したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信コース</li> <li>① 進路実現に向けて良い結果となった。</li> <li>② 準備期間が短期間となってしまう, 十分に練習できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信コース</li> <li>① 多くの資格の試験方法がC B T方式に変更となり, 対策が必要</li> <li>② 取り組む生徒が減少しており, 対策が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境土木コース</li> <li>① 専門知識の理解と意欲向上のため資格取得を目指す。</li> <li>② ものづくりコンテスト測量部門に出場をする。</li> <li>③ コンクリート甲子園に出場する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境土木コース</li> <li>① 2級土木施工管理技術検定・学科試験70%以上, 測量士補20%以上の合格を目指す。</li> <li>② 四国・全国大会出場を目指す。</li> <li>③ 入賞を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境土木コース (評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況)</li> <li>2級土木施工管理技術検定では78%, 測量士補では13%の合格であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境土木コース (達成度) B (所見)</li> <li>資格取得に継続して取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境土木コース</li> <li>① 資格取得を目指し, 学習意欲を向上させることができた。</li> <li>② ものづくりコンテスト測量部門では, 徳島県大会で優勝することができた。</li> <li>③ コンクリート甲子園では全国優勝することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境土木コース</li> <li>① 努力したことが結果につながり積極的に学習できるようになった生徒が多くなった。</li> <li>②③ 大会に今後も挑戦していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>建築コース</li> <li>① 有益な資格を取得させ, 検定の合格を目指す。</li> <li>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築コース</li> <li>① 有益な資格取得を目指し, 2つ以上の資格を取得する。</li> <li>② ものづくりコンテストで, 県予選突破し, 四国大会に進出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築コース (評価指標による達成度)</li> <li>① 2級建築施工管理技術検定試験では全員受験で約90%の合格を達成することができた。</li> <li>② 県大会では準優勝をし四国大会の出場権を獲得することができた。(活動計画の実施状況)</li> <li>授業や実習において取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築コース (達成度) A (所見)</li> <li>取組の成果が上り, この状態を維持していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築コース</li> <li>実習時にも取り組むことができています。そのため, 理解が十分でない生徒に対する指導が容易となり, 確実な知識の習得につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築コース</li> <li>① 資格試験の時期が授業の進度よりも早く, 内容をすべて履修しないまま, 資格試験に臨まなければならない状況もあるが, 今後も生徒が積極的に挑戦できるように取り組んでいきたい。</li> <li>② 製作予算の確保をしていく必要を感じている。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>総合デザインコース</li> <li>① 有益な資格を取得させ、検定合格率向上を目指す。</li> <li>② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。</li> <li>③ デザイン分野の各種コンクールに出品し、入賞を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合デザインコース</li> <li>① レタリング70%以上、トレース80%以上、色彩検定60%以上の合格率を目指す。</li> <li>② 補習に積極的に参加させる。</li> <li>③ 課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合デザインコース</li> <li>(評価指標による達成度)</li> <li>① レタリングは63%、トレース62%、色彩検定64%、2級建築施工管理技術検定試験は80%の合格率であった。</li> <li>② 色彩検定や危険物の補習については早朝に行い、100%に近い出席率であった。(活動計画の実施状況)</li> <li>四国照明デザインコンテストで最優秀賞など上位独占、全国高校デザイン選手権では審査員特別賞を受賞した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合デザインコース</li> <li>(達成度)</li> <li>B</li> <li>(所見)</li> <li>目標とする合格率を下回った検定があったものの、2級建築施工管理技術検定試験に挑戦し高い合格率であった。また、色彩検定1級に2名が合格した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合デザインコース</li> <li>実技検定であるレタリング、トレース検定は実習時だけでなく、放課後や家庭での学習で成果を上げてきたが、より効果的な補習を行いたい。</li> <li>色彩検定、危険物の補習については早朝補習を計画的に行うことにより、成果を上げてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合デザインコース</li> <li>① 資格については、今後も継続して、各検定の最上位を目指していきたい。</li> <li>② 積極的な資格補習への参加を促したい。</li> <li>③ 各種コンペに今後も継続して出品していきたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科学コース</li> <li>① 1年生で基本的なロープワークを身につけさせる。</li> <li>② 四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびSSH生徒発表会に参加する。</li> <li>③ 海洋系の各種検定に積極的に取り組む。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>海洋総合コース</li> <li>① 専門分野への理解と学習意欲向上のため資格取得を奨励し、有益な資格や検定等の合格を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科学コース</li> <li>① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合90%以上を目指す。</li> <li>② 四国大会で最優秀賞をとり、全国大会出場を目指す。</li> <li>③ 「水産海洋技術検定」「漁業技術検定」「海洋情報技術検定」の合格率90%以上を目指す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>海洋総合コース</li> <li>① 係船や漁具製作に必要な基礎的な技術の習得率90%以上を目指す。</li> <li>② 「水産海洋技術検定」の合格率90%以上、「漁業技術検定」・「2級栽培漁業技術検定」・「海洋情報技術検定」の合格率80%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科学コース</li> <li>海洋総合コース</li> <li>(評価指標による達成度)</li> <li>① 概ね達成することができた。</li> <li>② 目標を達成することができなかった。</li> <li>③ 概ね達成することができた。(活動計画の実施状況)</li> <li>① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合100%</li> <li>② 生徒研究発表会、意見体験発表会ともに全国大会出場を果たすことができなかったが、SSH各種発表会やマリンチャレンジプログラム2022全国大会に参加した。</li> <li>③ 「水産海洋技術検定100%」「漁業技術検定90%」「海洋情報技術検定80%」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科学コース</li> <li>海洋総合コース</li> <li>(達成度)</li> <li>B</li> <li>(所見)</li> <li>① 繰り返し技術の定着に取り組んだ成果が現れた。</li> <li>② 生徒の研究の成果が十分でない状態での発表となってしまった。</li> <li>③ 海洋情報技術検定については合格率が低くなってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科学コース</li> <li>海洋総合コース</li> <li>① 実習内で繰り返し練習を行うことでロープワークの技術を身につけることができた。</li> <li>② 発表会に向けて研究や発表練習に取り組むことでプレゼンテーション能力が向上した。</li> <li>③ 各検定は授業内容とも密接に関係している内容であり、授業で学んだ知識や実習で身につけた技術を定着させるよい機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋科学コース</li> <li>海洋総合コース</li> <li>① 身につけたロープワークの技術を乗船実習や漁業実習の場面で実践させていきたい。</li> <li>② 動画発表における効果的なプレゼンテーションの方法について検討し、指導方法を改善していきたい。</li> <li>③ 冬休みの宿題やClassiでの配信も活用して取り組んだが、十分成果をあげることができなかった。模擬試験を充実させて、筆記試験対策に力を入れていきたい。</li> </ul>	

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
23	家庭・地域等との連携・貢献 ① 保護者への連絡・学校の情報提供を、文書とホームページへのアップの両方で行う。	① シャトル便の積極的な活用を図り、家庭との連携を密にするとともに、生徒の社会規範確立を目指す。また、PTA活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻りに意見を交換する機会の充実に努める。 (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 生徒・保護者・教員相互の関わりについて研修を深める。 ② 体育祭や文化祭のPTA活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする	① 体育祭・文化祭関係の四役会への役員の参加90%以上を目標にする。 ② PTA活動の参加の返事をシャトル便からClassiに移行し、ICT化を図る。	(評価指標による達成度) ① PTA四役の参加率は86%であった。 ② PTA活動の案内の出欠をClassiと紙との併用としICT化を図った。 (活動計画の実施状況) 体育祭・文化祭で保護者の要望をもとに学校との連携ができた。また、予餞会やSSH活動では、学校からの要望をPTAに伝え連携が図れた。	(達成度) B (所見) 参加率については、PTA本部役員を15名から21名に増員しての数字である。また、Classiだけの案内は難しいと感じた。	昨年まで本部役員15名であったが、21名に増員してPTA活動を行いPTA本部役員間での引継がうまくいくようしている。この事を通じて、PTA活動を通して、生徒・保護者・教員相互の連携を深めていきたい。	コロナ禍によりPTA活動を縮小してきたため、その活動の引継が難しくなっているため、PTA本部役員を増員しての1年であった。PTA四役会での協議内容をより、生徒のためという視点で、生徒・保護者・教員相互の連携を図れるようPTA四役会で協議できるようにしていきたい。
24	② 中学校関係者への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的	② ホームページや中学生体験入学、中学校訪問等を通して、本校の教育内容・教育活動についての広報活動を積極的に実施	① 広報内容を吟味し、速やかな情報発信を行う。 (企画部・企画広報課) ② 中学校を訪問し、本校の教育内	① 学校ホームページの更新回数を月3回以上とする。また、緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。	(評価指標による達成度) 新型コロナウイルス感染防止のため、中学生体験入学を中止したが、オープンスクールは、中学3年生限	(達成度) A (所見) ホームページを定期的に更新	① オープンスクールの参加者の98%から高い評価を得ることができた。徳島科学技術高校の広報という点では当初の目的を	広報活動については、コロナ禍でも効果的な方法を考える必要がある。

に広報する。	する。 (企画部・企画広報課)	容・教育活動について説明し、中学校教職員に本校について理解してもらおう。 (企画部・企画広報課)	② 本校単独学校説明会を実施する。	定で実施した。 (活動計画の実施状況) 4月から1月までの更新 4月13回、5月18回、 6月20回、7月9回、 8月7回、9月16回、 10月13回、11月18回、 12月34回、1月21回 合計185回(昨年度186回)	することで、閲覧数が増加した。	達成できた。 ② 本校の取組が直接中学生に理解され大変有効であった。
--------	--------------------	---	-------------------	--	-----------------	---------------------------------------